

# 地域とともにある学校

魅力ある学校づくりを目指して

<校訓>

樹の如く伸びよ 星の如く輝け

<学校教育目標>

自律する人間 共創する人間 錬磨する人間

2018/4/25 (水) 発行

校長通信 NO15  
北海道日高等学校  
町田英謙

## 北海道アクションプランについて

年度当初の始業式、入学式等の業務において滞りなく終了いたしました。教職員の皆様におかれましては、最大限での協働に感謝申し上げます。

さて、私たち教職員は、それぞれ義務感を持って教育公務員としての業務を全うしておりますが、真面目で実直な日本人の性格が職業に対し、人生の全てを捧げている傾向があり、国政でも豊かな人生に向け、働き方改革について審議がされております。

さて現在、学校には学習指導要領のねらいや社会からの要請等を踏まえ、生徒に対する指導を一層充実させることが期待されており、その現実に向け、道内全ての学校で教員が授業や授業準備等に集中し、健康でいきいきとやりがいを持って勤務しながら、学校教育の質を高められる環境を構築することが必要です。

平成28年度に道教委が実施した「教育職員の時間外勤務等に係る実態調査」では、

<1週間当たりの勤務時間が60時間を超える者の割合>

教諭 … 小学校~2割超、中学校~4割超、高校~3割超

教頭 … 小・中学校~7割超、高校~6割超

特別支援学校~3割

・中学校は、全国平均より長い部活動指導時間

等の課題が明らかになっており、教員が生徒と向き合う時間を確保するための取組の充実が喫緊の課題となっている。

こうした状況を踏まえ、道教委が主導して、道内の全ての学校において、働き方改革をおこなうため、業務改善の方向性を示した「学校における働き方改革『北海道アクション・プラン』」を作成することとした。

### 1 働き方改革に対する国の動き

H29.8 「学校における働き方改革に係る緊急提言」

H29.12 「学校における働き方改革に関する緊急対策」

### 2 アクション・プランの性格

・道内全ての学校が働き方改革を推進するため、道教委が策定し、市町村にも取組を促すもの。

・今後の国の動向や学校における取組状況などを見極めながら、必要に応じて適宜見直し。

### 3 取組の方向性

・これまでの働き方を見直し、教員が業務の質を高め、日々の生活や教職人生を豊かにすることで、自らの専門性や人間性を高め、教育活動の質を高めることを共有しながら、取組を実行する。

・学校はもとより、国、地方公共団体、更には家庭、地域等を含めた関係者がそれぞれの立場で、その解決に向けての取組が重要である。

### 4 アクション・プランの目標及び期間

・取組期間は平成30年度から平成32年度まで3年間

<平成32年度末に目指す指標>

1 部活動休養日の完全実施(年間73日)の割合

2 変形労働時間制を活用、学校の割合

3 定時退勤日を月2回以上実施、学校の割合

4 学校閉庁日を年9日以上実施、学校の割合

\*学校の割合 … 100%

### 5 保護者や地域住民等への理解促進

・学校、家庭、地域の連携協力の基礎は信頼関係と共通認識であることから、各学校や道教委は普及啓発を推進する。

### 6 具体的な取組(主なもの)

#### action 1 本来担うべき業務に専念できる環境の整備

・「チーム学校」専門スタッフ等の配置促進

○SC、SSW、特別支援教育支援員、部活動指導員等の専門スタッフの配置を促進

・校務支援システムの導入促進

○学習指導要領改訂のシステム改善等を検討

○市町村のシステム活用や導入について普及啓発

#### action 2 部活動指導に係る負担の軽減

・部活動休養日の完全実施

○休養日は、毎週1日以上、土日、祝日は月1回以上、学校閉庁日に実施

○活動時間は、平日2~3時間程度、土日、祝日及び長期休業期間中は半日程度

○スポーツ庁のガイドラインを踏まえ、必要な見直し

・部活動指導員の配置等

○道立学校に指導員を配置

○部活動の効果的な活動に取組む町村へ配置支援

#### action 3 勤務時間と学校運営体制の充実

・人事評価制度を活用した意識改革の促進

○道立学校取組状況を管理職員の人事評価に反映

○面談等での改革推進で全職員での実施

○週の勤務時間60時間超過職員の適切勤務を推進

・長期休業期間中における「学校閉庁日」の設定

○長期休業期間中に一定期間の学校閉庁日を設定

#### action 4 教育委員会による学校サポート体制の充実

・調査業務等の見直し

○廃止や縮小等の見直し

・勤務時間等の制度改善

○変形労働時間の導入や対象業務の拡大

○週休日の振替、勤務時間のスライド・振替期間等の特例、更なる改善を検討

H30.3.28 北海道教育委員会教育長 柴田達夫様  
<通知文書の抜粋>

## ゴールデンウィークに向けて

4月2日から新年度の学校が始まりましたが、転入者の引越、着任オリエンテーション、辞令交付式、町内挨拶、着任式、始業式、入学式、宿泊研修、各種検診、そして、授業等、目まぐるしく時間が経過し、あっという間に1ヶ月が過ぎようとしています。

北海道教育委員会の柴田教育長からの通知でもあるように、国の働き方改革が推進され、我々教育公務員が従来、認識していた業務の見直しや縮小が求められています。

気付けば、今週末からゴールデンウィークの前半がスタートします。在校生も新しい入学生で気疲れもあると思いますし、当然のことながら新入学生は、親元を離れた北海道での自律した生活に疲労はピークを迎えていると思います。それを支える教職員は、毎日の緊張した生活を考えると自分では気付かない疲労が蓄積していると思います。

是非、この期間を通じて心身共にリフレッシュできるように、心から祈念申し上げます。連休明けに更に素晴らしい教育活動にご協力を願います。